

2020 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 航空宇宙システム事業について、前年同期比で大幅な減収減益となった理由を詳しく教えて下さい。</p>	<p>A1 : 民間向け機体は、ボーイング社の減産影響を大きく受け前年同期比で約 6 割の減収となりました。民間向けジェットエンジンは、旅客需要の減少により前年同期比で約 4 割の減収となりました。民間向けジェットエンジンはアフターマーケットで投資回収するビジネスモデルですが、以下の要因により第 1 四半期は大幅な赤字となっています。</p> <p>① 第 1 四半期は旅客需要の急減による運航時間の減少に伴いスペア部品販売が減少しました。更に、2019 年度第 4 四半期に、減便により飛行停止となったエンジンをその間に整備したいという需要の急増により、高水準のスペア部品販売がありましたが、それらをコストとして含むメンテナンス費用が今年度第 1 四半期に集中して発生しました。</p> <p>② エアラインとの長期メンテナンス契約に基づく運航時間に比例したサービス収入は、運航時間の減少により大幅な減収となりました。</p> <p>③ Trent1000 エンジンの不具合対策に伴う整備費用が増加しました。</p>
<p>Q2 : 航空宇宙システム事業について、第 2 四半期以降の損益はどのように推移する見通しですか。</p>	<p>A2 : 旅客需要は渡航規制によって前年と比較して 4~6 月は 70%以上の減少、7~9 月は約 65%減少すると想定しています。今年度 4~9 月が市場の底になり、その後穏やかに回復すると想定しています。よって、第 2 四半期も赤字を想定していますが、赤字幅は減少し、第 3 四半期以降、損益は改善に向かう見通しです。</p>
<p>Q3 : ジェットエンジン事業について、通期売上見通しの中で、アフターセールスは前期比でどれくらいの減収を見込んでいますか。</p>	<p>A3 : 前年度のアフターセールスは 1,000 億円程度ありましたが、今年度は 4 割程度減少し約 600 億円を見込んでいます。</p>

2020 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q4 民間向け機体事業について、減損のリスクはありますか。</p>	<p>A4 : 現時点では、減損の可能性はないと判断しています。</p>
<p>Q5 : 前年同期比損益増減要因分析の中で、新型コロナウイルス感染拡大の影響額を 202 億円としていますが、当該影響額に対する売上規模はいくらですか。また、具体的な中身を教えてください。</p>	<p>A5 : 対応する売上高は約 570 億円です。 具体的な中身は、航空宇宙システム事業では、ボーイング社の減産に伴う収益減や航空機の運航時間減少に伴うジェットエンジンの収益減です。モーターサイクル&エンジン事業では、欧州等で販売店の営業活動が停止した期間中の販売機会逸失に伴う収益減です。また、精密機械・ロボット事業では、中国における工場の一時的閉鎖や販売ができなかった期間中の収益減です。</p>
<p>Q6 : 通期見通しについて、経常利益以下が公表されていない理由を教えてください。</p>	<p>A6 : ポストコロナを見据えて、今後発生しうる追加的な費用を精査中のため、現時点では引き続き未定としております。合理的な予想が可能となった時点で速やかに公表いたします。</p>

以上